

第 39 回 ECE プログラム委員会幹事会

議事録

1. 日時：平成 29 年 3 月 23（木）15:00-17:00
2. 場所：日本工学会（森戸記念館 第二会議室）
3. 出席者：（アンダーラインで示す、なお以下敬称略）広崎 隆太郎、石原直、武田 晴夫、
秋永広幸、渡邊 誠（代理 山脇 寿）、加藤 穂慈、京谷美代子、田辺 朗、松村正
明、持田侑宏
奥津良之（記録）
4. 配付資料
資料 39-1 第 38 回 ECE プログラム幹事会議事録（案）（H29/1/24）
資料 39-2 物質・材料基礎 ECE プログラム推進委員会（H28 年度経過と H29 年度計画）
資料 39-3 SICE プロセス新塾 ECE プログラム推進委員会（H28 年度完了と H29 年度計画）
資料 39-4 IoT に関する高度技術者教育プログラムに関する報告（速報版）
資料 39-5 新川崎・創造の森 産学交流・研究開発施設のご案内パンフレット一式
（石原先生ご提供資料）
4. 委員長挨拶 石原委員が入院加療のためご欠席とのご報告を戴き、審議に入った。
5. 前回議事録（案）確認
指摘無く 議事録は承認された。
6. 各報告

（1）NIMS 山脇委員代理より物質・材料基礎 ECE プログラムの H28 年度実施状況および H29 年度実施計画&継続申請書案について報告があった。

●7 回のイブニングセミナーを実施した。受講生は各回一人最低一回は発言する。後半の講義は机を輪の形に囲む形式とし、ディスカッションを重視した。しかし、一方で 11 月以降のセミナー参加者が 10 名～15 名程度と減少する傾向が認められた。一回のみのセミナー参加者人数が 70%程度であることが、今後の ECE プログラム（高度技術者教育）としての効果を勘案するとき、課題である。

岸推進委員長の構想として、受講生だけでなく、講師サイド（NIMS 研究員）の技術者レベルを 講演発表・講師参加を介して引き上げる、という意図もある。受講生・講師ともに WIN・WIN の発展的なプログラムとなりたい。

●毎年 大テーマがバラバラのように見えるが、その底辺には「データ活用・計算と解析」という基本思想が流れていることは ご了解いただきたい。

●委員長からの確認指示事項・・・以前は年度初の受講生募集時に 年間の参加者（つまり継続的にセミナーに参加するもの）を求めていたと記憶しています。最近はその都度に参加者を募っている様子ですが、ECE の趣旨からいって年間を通して継続的に参加する研究者・技術者を募る（獲得する）必要があるように推察されます。この部分についてご確認・ご検討下さい。（もちろん各テーマが多彩であることは了解ですが、最近の技術は融合的であり、変化のスピードも速いので広く知識・経験を獲得させたい。）

(2) SICE 奥津委員より、プロセス新塾の H28 年度報告および H29 年度計画&継続申請書につき報告があった。

●今年度は 34 名の参加者の内、29 名が ECE プログラム修了認定候補者となった。これを本年 4 月 4 日の ECE プログラム委員会に具申する。

●SICE プロセス新塾 2017 と呼称し、本年 6 月 2 日開講式を以って本年度プログラムを開始する予定である。ECE 認定継続申請を 4 月 4 日 ECE プログラム委員会に申請する予定。

●2017 ではスーパ受講生について熱い支援を計画中である。

●本プログラムは 2016 年度工学教育賞 (JSEE 主催) の内示を得た。8 月 29 日 JSEE 第 65 回年次大会にて北森塾長 (代表) が顕彰される予定である。

●広崎委員長・奥津委員で技術者教育&ECE に関して対談を行い、日刊工業新聞 3 月 21 日 10 面 11 面にした旨報告があった。また業界紙などにも新塾 2107 広報を実施中。

(3) 資料 38-4 IoT プログラム (開発中) につき奥津が代読した。

●順調にトライアルが完了した。これを発展させて H29 年度 ECE プログラム申請を実現したい。 <https://www.iot-aidevice.org/> を開設し広報視点でもステアリングを開始した。

●2016 年 2 月 23, 24 日に実習 (3 名) および講習 (20 名) をトライアルとして実施した。 場所: 国立研究開発法人産業技術総合研究所つくば中央で開催した。大好評。

(4) エレキ・イノベーション人材 ECE プログラム Feasibility Study につき全員でデスクッションを実施。

●実習場所の候補地として 新川崎・創造の森 産学交流・研究開発施設のご案内パンフレット一式を全員で読み込んだ。ただ、詳細は次回石原先生にお伺いしたい、ということで 一旦保留。

●武田委員から まず中心になる方 を決めるべき、との意見を戴き、検討を進めることとなった。

●プログラムにつき 「青写真」を作るようタスクメンバに対し、委員長指示を戴いた。今後タスクで検討する。

次回 (第 40 回会合) は 2017 年

5 月 25 日 (木) (於 森戸記念館) 15:00~17:00 を申し合わせて閉会とした。

以上

その後、 30 日 (火曜) の同時刻に変更した。